

**VEC創立 40周年に思うこと**

今年の7月にVEC創立40周年を迎えました。

当初、まだベンチャービジネスという言葉はなく、VECは「研究開発型企業育成センター」と呼ばれていました。

初めてベンチャービジネスという言葉を使って、ベンチャーのコンセプトを作られたのが法政大学の清成先生です。私も若干35歳。関西支部に入れていただきました。

当時VEC関西支部は、百々達郎という怪物？が支部長を務められ、それは面白い、お酒大好き人間でした。何時も新地の美人ママも連れて来られ、百々さんを中心に講演会後に飲み会が始まり色々な話が飛び出しました。

例えば、氏が開発されたものに、肥(こえ)が出ないトイレ。例えば山小屋なんか最適ですよ！開発された、ある菌を用いると便をすべて食べてしまい、ほとんど肥(こえ)が出ない便所の開発、評判になったとのことですが、ある時すべて便が残ってしまったそうです。

調べてみるとその方は風邪にかかって抗生物質を飲んでいたので、それが細菌を殺してしまったそうです。皆で大笑い！

講演よりも後の飲み会が楽しく、毎回参加したものです。

またLSAカードを開発された大木さんという個性

の強い怪人物が同期入会におられ、今でいうICカードを開発し、企業発展の途中でうまく行かないことがあり、それは辛い辛い最後を遂げられました。

他にも経営コンサルタントの小林さんや青山さん、皆、なつかしい大先輩でいろいろ教えていただきました。

わが社の開発したゲルマニウム半導体風速計もVECが債務保証をして頂いたおかげで、製品化ができて、出資会社トーニック(株)が継続して営業しております。因みにその時のVECの審査委員長は本田宗一郎さんで、審査委員に牧野昇さんがおられました。

わが社もVECとともに歩んでまいりました。感謝！

この他にもVECのサポートにより発展された企業は数多くあります。

これからもベンチャーの為に貢献する財団として新しい企画や業務運営を担って行くのが役目であると40周年を迎え思うものであります。



一財) VEC 関西支部長
本田工業株式会社 代表取締役 本田 英行

**VEC様、創立40周年、おめでとうございます。
心からお祝い申し上げます**

経営資源「ヒト・モノ・カネ・情報」という言葉を、ビジネスに携われる方々はよく御存じかと思えます。モノとカネは一度使うとなくなる、情報は何度でも使える(多重利用)ができるが分析する能力が不可欠、ヒトはプラスにもマイナスにもなる可変性がある、という特色があります。

私の存じ上げるVEC関西支部のメンバーの皆様は、「ヒト」という資源の特徴をよりよい方向に発揮されていると思えます。より望ましい方向へというベクトルで個人と組織の能力を少しでも伸ばしていく可能性を、日々模索されていると実感するからです。

この姿勢は、ベンチャー・スピリットと言い換えられます。ただ、単に可能性を信じて実行するというだけではなく、モノやカネや情報を活用して自分たちの有する専門性を深める、高める、展開する、という明確な指針をもってスピリットを発揮されています。

今後もVECの活動を通じて、メンバーの皆様の様々な経験から得られた、ベンチャービジネス発展のために役立つ有形無形の支援の在り方を、提案・実現していただきたいと思えます。

私は伝統文化を現代に伝えるいくつかの事例(京都花街、宝塚歌劇、能楽等)をもとに、人材育成と事業

システムを探求しています。

それは、「ヒト」という可変の資源をより望ましいものに変えていくだけでなく、チームワークをうまく発揮させ、さらに、他の組織と連携や協業あるいは競争もして、顧客にきちんと付加価値を提供する仕組みを作る、そこに興味があるからです。

なぜベンチャー企業ではなく日本の伝統文化の組織を取り上げるのかは、伝統という時間を重ねる組織が、絶えず将来のよりよいあり方を模索されてきた、多様な生き残りの道のプロセスを調査でき、そこから制度的叡智をご紹介できるのではと考えるからです。

今年4月から1年間、法政大学のイノベーション・マネジメント研究センターと野上記念法政大学能楽研究所の客員研究員として滞在しています。寄稿の機会をいただいたことを感謝して、VECの皆様へのベンチャー・スピリットに学びながら、現代社会に少しでも役立つ研究を目指して、教育と研究というサービスの付加価値のアプトプットを模索しています。

皆様の益々のご発展を祈念しております。



(著書)



(宝塚歌劇)

「水素社会」、そして「アンモニアエコノミー」

2014年12月15日、トヨタ自動車は新型FCV(燃料電池自動車)「MIRAI」を発売した。当初、1台1億円とも言われていた本体価格を600万円台にまで引き下げたことは賞賛に値するところであったが、その燃料供給インフラの整備が懸念される中、どこまでの勝算があるのか、疑問を投げかける声も多かった。何れにしろ、このトヨタ自動車の大英断は「水素社会」という日本のエネルギー基本計画の目標の一つに市民権を与えたことは間違いないだろう。ただ、どうも「水素社会」の意味については正しくとらえられていないように感じている。

FCVは究極のエコカーと言われ燃料として水素を「使う」ときにCO2を排出しない。しかし、世界で生産される水素の大半は化石燃料からCO2の排出を伴って「作られ」ている。従ってFCVを走らせるためにはCO2が排出されていることになる。ではなぜ「水素社会」を目指すのであろうか。

水素は上記の化石燃料を原料とする以外に、現段階では経済性は劣るが「水」を原料としてメガソーラーや風力発電などの再生可能エネルギーによる電力を使ってCO2を排出させずに作る方法もあり、この方法を使うと「作る」「使う」どちらでもCO2は排出されない。

しかも化石燃料のように特定の地域の資源に依存することもない。更に電気エネルギーを水素に変換することによりエネルギーを「貯める」「運ぶ」ことができるという大きな特徴を持っている。これが「水素社会」を目指す理由である。

紙面の制約から詳述は別の機会に譲りたいが、電気エネルギーを「貯める」「運ぶ」機能は、実は「アンモニア」も持っている。このアンモニアを環境負荷のない電力と水と空気中の窒素から作ることができるとすると「水素社会」が求めていることがアンモニアでも実現できることになる。

当社では、「溶融塩」という技術をベースに様々な技術シーズを提供しているが、その主要な開発テーマである「水と窒素から直接アンモニアを作る」は国のプロジェクトに採択され、現在開発を進めている。これが実用に至れば、電気エネルギーを「貯める」「運ぶ」ことはもとより、アンモニアの用途である尿素(肥料)や、合成繊維の原料、半導体製造用、火力発電での脱硝用など、その経済効果は農業・衣料・電子機器・電力などに広がり、正に「アンモニアエコノミー」が実現できると期待している。これまで当社が築いてきた技術の集積が、イノベーションへと結実し、未来に貢献できるよう弛まぬ努力を続けて行きたい。



アイ・エムセップ株式会社 経営基盤強化プロジェクトマネージャー 稲本 知弘
〒610-0332 京都府京田辺市興戸地藏谷1番地 同志社大学京田辺キャンパス内D-egg 310号室

「一度住んでみたい街ーモンタナ州ボーズマン」

何度かご紹介している「イエローストーン国立公園」ですが、今回は、その北のゲートウェイであるボーズマン空港がある、モンタナ州の“ボーズマン”をご紹介したいと思います。

ボーズマンは面積32.6km²(大阪市中央区の4倍弱)で、人口はおおよそ38,000人という小さな市ですが、過去10年の間に、「人口5万人以内の都市の中で、最も質の高い暮らしができる“ドリームタウン”ランキング1位(ビズジャーナル)」「地域特有の食べ物、魅力的な博物館等の文化施設、大自然の魅力や自然のアクティビティを兼ね備えている都市TOP10のひとつ。(フォーダーズトラベルガイド)」「家族との新たな人生や新しい仕事をスタートする場所、たどりやすくするだけの場所としても最適な町24のひとつ。(サンセット誌)」などに選ばれ、2010年度以降凄まじい勢いで人口が増えている注目のスモールシティなのです。

冬は最低気温が-20℃と厳しく、一年の半分が冬のこの市がなぜそんなに人気なのでしょう？その答えは置かれる環境にありそうです。

ロッキー山脈に囲まれた市の中心には広大な敷地を持つ“モンタナ州立大学”や、世界一の恐竜の化石コレクションを誇る“ロッキー博物館”があり、街には歴史ある建物が残り、ダウントウンはとてとても綺麗で安全です。また、映画「リバーランズ・スルーイット」で若き日のブラッド・ピットが楽しんだフライ・フィッシングをはじめとする釣り、「モンタナの風に吹かれて」で印象的だった乗馬、全米のベスト10に入る“ビッグ・スカイ・リゾート・スキー場”、様々なトレッキングコース、そして夏には川下り。と、いずれもすぐ近くで様々な自然のアクティビティを、しかも本格的に楽しむことができます。そして、車で2時間半走れば、世界遺産の“イエローストーン国立公園”！このような環境で暮らす住民たちは、自分たちの街をとてとても愛しています。古い建物を保存する為に募金が募られるとあたりまえのように協力をし、毎年夏に行われるスイートピー祭りでは、子供からお年寄りまでがこぞって盛り上げ、街をあげて楽しめます。また、コンサートやバレエ、演劇などのイベントがお手軽価格(グラミー賞受賞者のジョージ・ウinstonのチャリティ・ピアノコンサートが、2時間以上の演奏にもかかわらずたったの20ドル!)で催され、日本の文化に興味を持つ親日家もたくさんいます。人間を豊かにする為のコンテンツがこれでもかと揃っている“ボーズマン”。ここで暮らすといろんな意味で余裕のある人間になれること請け合いです。海外でのショートステイやロングステイをお考えの方におすすめの、アズトラベル一押し街です！



(写真は「有名なTed'sのバイソン・バーガー」と「全米一に表彰されたモンタナ産のキャラメル」です)
アズトラベルサービス株式会社

◆ 昭和50年前後を中心とした景気名称をもう一度振り返りました！

- 昭和46年12月 ~ 昭和48年11月 : 列島改造ブーム
- 〃 48年11月 ~ 〃 50年 3月 : 第1次オイルショック
- 〃 50年 3月 ~ 〃 52年 1月 : 安定成長景気
- 〃 52年 1月 ~ 10月 : 円高不況

当時の出来事としては固定相場から変動相場へ移行、原油価格の大幅上昇による狂乱物価勃発。昭和49年には実質経済成長率がマイナス1.2%となり、高度経済成長期から安定成長期に移行。輸出品は鉄鋼から自動車や家電へと移行し「ジャパンアズNo.1」と賞賛された。

経済激動の中でVECは起業やベンチャー支援に一定の役割を果たしてきたのではないのでしょうか。

VEC関西支部事務局

～VEC関西より～

- ・20代後半の時、ある先輩に人生訓を教わった。「人間一番大事なことは修身、齊家、治國、平天下やで〜」。その一番初めの「修身」すなわち自分の身を修めるのが難しい、後一杯の酒が止められない。でもその代わりに毎朝40分家の近くを早歩きしている。これで何とかこの年まで健康に恵まれているので、まあいいかー。(本田)
- ・40年前の物価を主婦目線で少し調べてみました。しょうゆ155円・食パン1斤55円・豆腐1丁30円・レタス75円・牛乳75円・タクシー初乗り220円・新幹線(東京→大阪)2,700円・・・当時と比べると2〜4倍高くなっているようです。消費税も上がってますね！しかし40年前よりも安い物、あまり変わらない物もあります。店側の色々な工夫と努力のお陰もあるのでしょうか。(藤本)
- ・「あべのハルカス美術館」開館1周年記念特別展覧会にて「昔も今も、こんびらさん。」が5月中旬から始まっておりやっとのことで行くことができました。金刀比羅宮が所蔵する伊藤若冲・円山応挙等の作品が120点公開されており、特に私は日本画家の中でも「円山応挙」の大ファンで以前より応挙寺とされている兵庫県美方郡の大乗寺

にも何度か足を運びました。今回はガラス越しの応挙の作品と私の距離間(約30センチらしいです)が本当に近く、作品の中でも重要文化財の「遊虎園」は圧巻でした。応挙の作品から今にも動きそうなりリアル感が目の前で感じられゆっくと鑑賞でき大変幸せな時間を過ごせました。(濱本)

・VEC40周年を迎え西尾教授からご示唆とメッセージを頂き、本田支部長からは今まで歩んで来たVEC歴史の一部を紹介致しましたが、今後共先人の輝かしい実績に恥じない企画や業務運営を目指したいと思っております。皆様からのご意見ご要望もお待ちしております。(澤村)

<交流会の予定>
例年どおり8月の開催はございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293